

春一番虚子の生れし日なりけり

藤田湘子

虚子の生まれた日は、明治七年二月二十二日、掲句の通り、まさに春一番の吹く頃だ。しかし、歳時記には俳人の忌日は多く見受けられるが、生誕日の記述は少ない。「関東地方に春一番」という報道を聞いた時、「虚子の生まれた日だ」と思うには虚子への思い入れが深くないと咄嗟には出てこないのではないだろうか。

湘子は、子規―虚子―秋桜子―湘子と連なる系譜を誇りとしていたが、生前虚子に見え得まみなかつたことを悔やんでいた。「十七年間も共に生きた年数がありながら生前せめて一度でも声を聞いておきたかった。臍を噛む思いだ。探れば探るほど大きくなる虚子への関心を永く持ち続けている。」とエッセイに書いている。

1997年 (H9作) 第十句集『神楽』 鑑賞・野本京